

紙面から

教育随想

「家庭の躰」

岡崎商工会議所会頭

大川 博美氏

羅針盤

一人の進歩は全体の成長に

矢作東小学校長 本多 有三

この人に聞く

「岡崎手をつなぐ親の会」会長

杉田しげ子氏

特集

ふれあい、かたらいの里

―福祉の村―

ふれあい

A男の頑張り

井田小学校

平岩 浩二

師弟同行

元愛宕小学校長

稲葉 道彦

梅園小学校

蒲野 洋二

フォト・ヒストリー岡崎の教育

愛宕尋常小学校開校記念式

(昭和十一年)



5月号

平成11年5月1日

発行/編集

岡崎市教育委員会

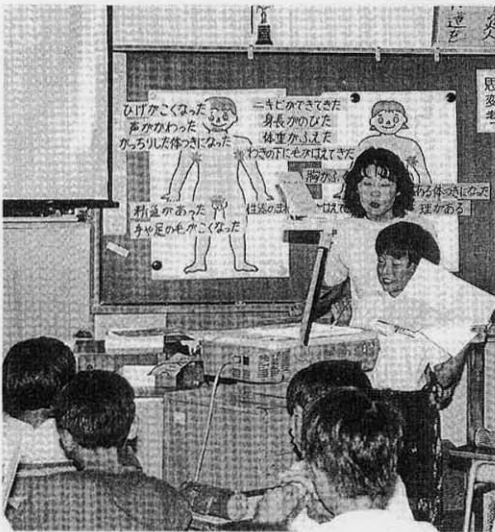
今月の学校紹介  
～山中小学校～

えがお いっぱいの山中っ子

- ・やさしいえがお  
命を尊び  
思いやりあふれる子
- ・はじけるえがお  
体をきたえ  
力いっぱいはげむ子
- ・自信のえがお  
深く考え  
自ら学ぶ子

スクラムで築く健康教育

- ・健康フェア
- ・性教育
- ・地域学習





— 教育随想 —

## 家庭の暎

岡崎商工会議所会頭

大川博美



私は商売を始めて三十二年になります。商売ほど面白いものではなく、商売ほど恐ろしいものはないと思っています。いつも気を入れて仕事をしていないと、運はしらんふりをして通り過ぎていってしまいます。真剣に取り組むと必ず何らかの成果が出てきますが、あまり真剣過ぎるとくたびれて長続きしません。

仕事の中で、面白くて熱中できるものは、その人に合った天職です。だが、そういう人は少なく、気乗りしないまま続けていたら、面白さがわかってきたという人の方が多いようです。

商売はその物件の対応のしかたが全部違い、先輩に教えてもらった事

ています。小さな時からお金を稼ぐ大変さを体験させていることが、日本と大きく違います。

豊かになった日本の子供は、親の知らない所で馬のたてがみの様な髪や茶髪、白髪にして学校へも行かず数人輪になって、たむろしているのを見ると、これでいいのかと将来が案じられます。大事な我が子に両親はなぜ注意をしないのかなと思います。又注意をしても言うことを聞かないのかもしれませんが。

バブル経済の後遺症でリストラにさらされ、子供どころではないと言われるかもしれません。家庭の中で親は、子供たちを食わしている、という権威をしつかり示すことです。

私は商売柄、お父さんには子供たちとは違う権威を示す上質な椅子を居間で使ってほしいと思っています。

その居間で、夜は少しでも子供と両親が話し合い、日曜日には両親と子供が遊び、話し合うようにしてほしい。話し合いの中から親は子供の個性を見抜き、目標をもって将来へ向かって努力をすれば、必ず報われます。個性に合った仕事を楽しみます。個性に合った仕事を楽しみながら社会へ貢献するような方向づけをすることが大切な事ではないかと思えます。

(おおかわ ひろみ)



一人の進歩は全体の成長に

矢作東小学校長

本 多 有 三

「こんにちは」

「いらつしゃい」

「くをやらせてください」

「遊び方はくしてやりませう」

「ありがとう」

「来てくれてありがとう。また来てね」

これは、本校独自のテーマタイム学習の授業で使われた一年生の音声言語表現力の基礎を身に付けるためのマニュアルである。

自分たちで考えた遊びをお店屋さんごっここの形態で学び合うなかで、体験的に学ばせるものである。

六種類の遊びグループがそれぞれ三つのチームに分かれて順次お客と店屋の関係になる。遊びのおもしろさを体験したり、友達とのかかわりを学んだり、遊び方の説明を自分のことばで表現したりすることができるところを目標としている。

ふるさとシリーズ

## この人に聞く



## 「岡崎手をつなぐ親の会」会長

杉田 しげ子氏

桜が花開こうとする三月の暮れ、福祉会館のとある部屋で「岡崎手をつなぐ親の会」会長杉田しげ子さんとお会いした。優しい笑顔の奥底に、毅然とした凛々しさを感じさせる。会長としての風格であろうか。

岡崎手をつなぐ親の会。これは昭和三十七年に発足した知的障害児者の子を持つ親の会である。杉田さんに会との出会いについて尋ねてみた。

「自分も知的障害の子供を抱えていて、前途に失望していた時、地域の方から教えていただき入会しま

した。三十年近くこの会に携わってきました。平成八年度から会長職にあります。」

会では、スポーツ・ボウリング・料理・音楽といった四つのサークル活動の運営に力を注いでいる。ボウリングでは、ゆうあいピック茨城大会に県の代表として参加する子がい

たり、音楽では、三重県松阪市で行われた本居永世童謡歌唱コンクールで特別賞を受賞するほど、大きな成果を上げたりしているのだという。

「子供たちが楽しみながらそれぞれ自立し、自信につながっていくことが、サークル活動のねらいです。子供同士でかわりを持って育っていくことは、自立への道と考えています。」

会の発足当初は、親たちが手をつなぎ子供たちの将来を考えていこうとするものであった。しかし、現在は、親が協力するだけでなく、子供同士も手をつなぎ、自立してもらうことに力を入れているという。そのため杉田さんは、グループホーム制度の確立を強調される。

「グループホームは、知的障害者たちが自立した生活をめざして、世話人の手助けを受けながらアパートなどで共同生活をするシステム

です。だれでもが地域で暮らせる社会を願う、この活動に対しての資金的なバックアップを求めると、できれば公的な機関の支援が欲しいのです。」

熱く語る杉田さんの目尻に涙が光る。子供への思いがあふれ出る。

活動を進めていくうえで、困ったことや嫌なことはありませんかと尋ねると、

「親の会の人は、子供と一緒に活動を楽しんでいます。ですから、特にそのようなことはありません。」

子供の未来を見すえながら、共に活動し喜びを見出す杉田さん。その姿に教育の原点を垣間見た気がし、さわやかな気分になった。

氏名 すぎた しげ子  
住所 中町八丁目六一二



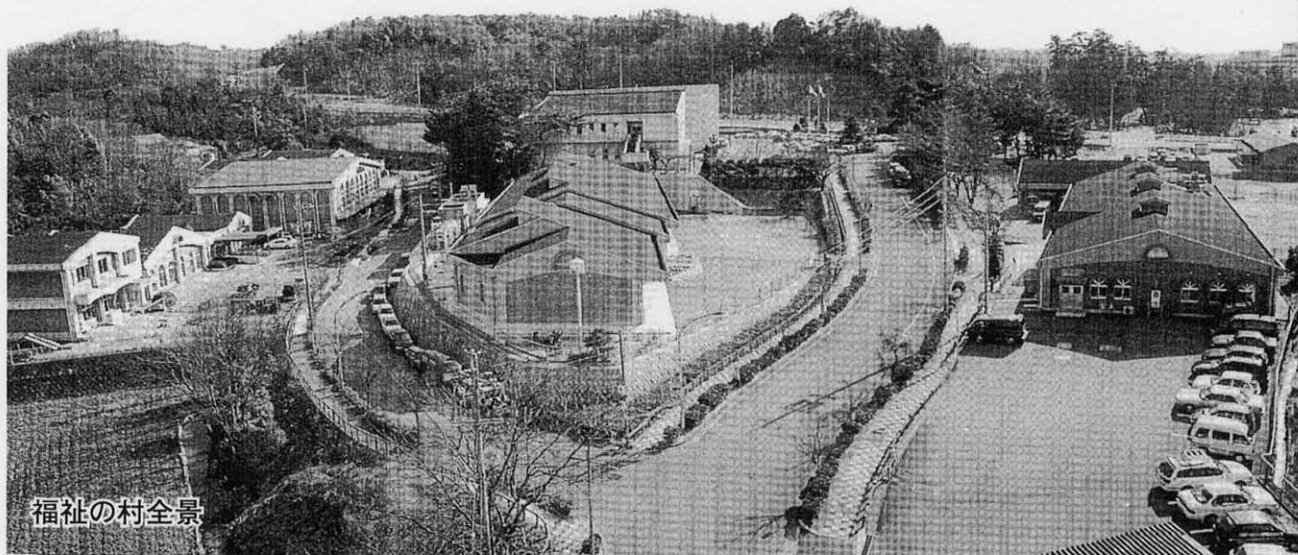
お互いが遊びを通していろいろな学びができる。目的意識を持って取り組ませれば、あいさつをかわすことも、礼儀をわきまえることも、言葉の交流を広げること、おもしろいあるいは楽しいと感じるなかで学習することができる。

そんな中、勝手気ままなことはよくしゃべり、改まったことばや明瞭な発音のことばを苦手としていたA君が、「こんにちは」「をやらせてください」などと、はっきり口にして遊びに加わる姿があった。A君にとって、このような体験活動を通しての学習の場は、音声言語による表現力を高めるのに最適の場となったように思う。そして、A君を含めた学級全体が一斉に六つの店で遊びをし合っていたのであるが、それぞれどの店でもマニュアルがあったとはいえず、「こんにちは」「いらっしゃい」「ありがとう」のあいさつことばや遊び方の説明をすることばが飛びかっており、一人一人がしっかりと自分のことばで表現していることにほっとしたものである。

これは、A君を始めとする一人一人の進歩が、学級全体の成長をはっきりと認識させてくれた一つの場面であった。

# ふれあい、かたらいの里

## —福祉の村—



福祉の村全景

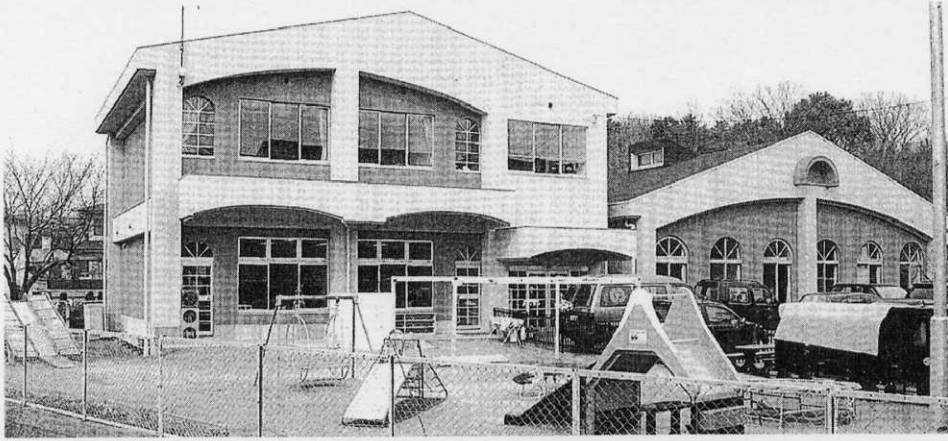
福祉の村は昭和四十九年、市が岡崎額田地区広域市町村圏域事業として、広域老人及び心身障害者の福祉向上を図るための総合福祉センターとして開設された。村には、老人センター「清楽荘」、身体障害者センター「友愛の家」、知的障害者授産センター「希望の家」、福祉の村体育館、知的障害児療育センター「若葉学園」、心身障害児地域療育センター「めばえの家」、知的障害者更生センター「そだちの家」、知的障害者授産センター「のぞみの家」、宿泊体験センター「みのりの家」の施設がある。

「清楽荘」では、お年寄りが囲碁などを楽しんだり、入浴・動作訓練・生活相談なども行われ、健康なふれあいの場を提供してくれている。「若葉学園」には、おむね二歳から五歳までの児童が通園バスで通い、基本的な習慣の指導と諸機能の回復訓練が行われている。

三歳までの心身の発達に心配がある児童には、保護者と共に通所し、発達に応じた療育指導が行われる「めばえの家」が開設されている。「そだちの家」では知的に障害のある方が通所して、更生に必要な生活習慣の習得や作業訓練などが行われ、「友愛の家」では、在宅障害の福祉サービスの需要に応じるための各種の事業を継続的、計画的に行うことにより、社会生活への適応性を高め、福祉の増進を図っている。



▲「みのりの家」を支える自立の柱



▲親子がともに学ぶ「めばえの家」



▲「のぞみの家」の自主製品



▲送迎バスでの通園「若葉学園」



▲レクリエーション「清楽荘」  
▶玩具花火の袋詰め「のぞみの家」

## Communication & Independence



▲あて名シールはり「希望の家」



「のぞみの家」「希望の家」では、雇用されることが困難な知的に障害のある方が生活に必要な訓練を行うと共に作業をするところである。平成九年宿泊体験センター「みゆりの家」が開設され、家庭で生活している知的に障害のある小学生以上の方々が、宿泊を伴う共同生活を体験できるようになっている。一つの屋根の下で「自立の柱」を囲んで、ふれあい、語り合い、自立に必要な知識を得、体験をする場である。この村のどこを歩いても、「こんにちは」と軽やかな声が先に聞こえてくる。生きがいと自立という未来に向かって明るい村である。

## Training

## ふれあい

## A男の頑張り

井田小学校

平岩 浩二

本校が広島県福山市立鞆小学校と姉妹校の縁組みをして今年で二十七年になる。ここ数年、鞆小学校来訪時には体育館で交歓会を行い、楽しく交流を深めてきた。

「暑いもん、交歓会はプールでやろうよ。井田小のプールはきれいだしね。」

夏休み直前の委員会でA男が言った一言がきっかけとなり、今年はずいぶんプールを会場にして、交歓会の計画を進めることになった。

A男は交歓会において総合司会を担当する。彼は、鞆小の児童と一緒に遊ぶことが出来ないにもかかわらず、休みを返上して熱心に準備を進めた。

八月一日。鞆小来訪当日。



準備の苦労が報われるような好天の中で、交歓会が始まった。「一寸法師リレー」、「列車でゴー」、そして、「お宝探し」と、会が進行していく中、A男は時にはアドリブを混ぜながら立派に司会の大役を果たした。

「自分が楽しむより、みんなに楽しんでもらいたいと思って頑張りました。アドリブの時にはとても緊張したけど、鞆小の校長先生にもほめてもらえて、とても良かったと思います。」

この交歓会を通して、彼が精神的に大きく成長出来たことを喜ぶと共に、今後姉妹校交流を続けていくことが出来たらすばらしいと思った。

## 優しさのなかの厳しさ

梅園小学校

蒲野 洋二

小学校へ入学して間もないころ、当時七才だった私に一生忘れられない出来事が起こりました。

「体操ズボンを忘れたなら、パンツで体育をやりなさい。」

しばらく泣きながら抵抗していたと思いますが、許していただかず、意を決しパンツのまま行つたことを覚えています。また、書き初めの清書を自分の体より大きな紙に書く機会があったのですが、何度書き直してもなかなか合格できず、家で泣きながら完成させたこともはっきり覚えています。

今思えば、先生に大声で叱られた覚えもなく、いつも大きなきれいな字で勉強を教えていただきました。しかし、



ここという時は決して甘えを許さない厳しい先生でした。十五年後、兄の葬儀を終えてしばらくしたある日、突然、

先生がいらつしやいました。とつさに一年生に戻つた私は、何とか私が本人であることを、伝えるだけで精一杯でした。先生は兄を亡くした私へ、激励のお言葉をおつしやると、早々にお帰りになられました。その夜は母子二人で先生の本当の優しさに深く感謝しておりました。

その翌年から教壇に立つことができた私。先生の教えを胸に、今度は私の子供たちのために、頑張っていきたいと思えます。

## 洋二君の思い出

元愛宕小学校長

稲葉 道彦

蒲野洋二君は、私の最初の赴任校、秦梨小学校で元気な

一年生として入学してきました。子供らしく、素直で憶えず、快活な少年でした。

お父さんは、教職在職中にすでに他界されていましたが、淋しさは微塵も感ぜられませんでした。お母さんの穏やかで優しいお人柄に負うところが大であると感じました。

パンツで体操の件、一生忘れられない出来事になっていとは露知らず、反省します。

ある年、花火大会の日、秦梨の蒲野という人が農協の屋根から墜落死した、という話を聞きました。私はとつさに洋二君に違いないと思ひ込み大変なショックでした。

次の日、香典を持っておそるおそる秦梨のお宅に行きました。ここで再度驚きました。家の前で洋二君そっくりの人が車を洗っているではありませんか。：亡くなったのはお兄さんでした。私はお兄さんがいたことは知りませんでした。

貴君は、社会科の世話係として活躍し、海外視察や広域人事で吉良町へ派遣されるなどその努力に敬服しています。今後も元気一杯活躍されますよう祈念いたします。



お知らせ

◆平成十一年度校長会役員

〈小中学校長会〉

- 会長 長坂 則彦 (三島小)
- 副会長 熊谷 満義 (井田小)
- 清水 厚治 (六美北中)
- 長谷川晴彦 (甲山中)
- 伊藤 安彦 (連尺小)
- 岡安 信彦 (南 中)
- 庶務 織田 和幸 (六美南小)
- 大井 正之 (新香山中)
- 加藤 一彦 (常磐南小)
- 澤 博史 (葵 中)
- 鈴木 敏雄 (大樹寺小)
- 山本 利春 (細川小)
- 永谷 達彦 (大門小)
- 石川 昌文 (岡崎小)
- 荒木 俊夫 (常磐東小)
- 柴田 敏希 (根石小)
- 野崎 公夫 (竜谷小)
- 山本 廣子 (藤川小)
- 鈴木 正純 (六美北小)

〈小学校長会〉

- 会長 熊谷 満義 (井田小)
- 副会長 山本 利春 (細川小)
- 伊藤 安彦 (連尺小)
- 会計監査 永谷 達彦 (大門小)
- 庶務 織田 和幸 (六美南小)
- 会計 加藤 一彦 (常磐南小)
- 会計補佐 鈴木 敏雄 (大樹寺小)
- 〈中学校長会〉
- 会長 清水 厚治 (六美北中)
- 副会長 岡安 信彦 (南 中)
- 長谷川晴彦 (甲山中)
- 会計監査 筒井 一夫 (城北中)
- 庶務 大井 正之 (新香山中)
- 会計 澤 博史 (葵 中)
- 〈専門委員会委員長〉
- 法制 藤田 吉信 (六美中)
- 理財 荒木 俊夫 (常磐東小)
- 給与 杉浦 正明 (竜美丘小)
- 文教 熊谷 満義 (井田小)
- 進路 澤 博史 (葵 中)
- 研修 柴田 隆夫 (矢作北中)

- 松井 幸彦 (緑丘小)
- 杉浦 正明 (竜美丘小)
- 筒井 一夫 (城北中)
- 二村 邦彦 (矢作中)
- 柴田 隆夫 (矢作北中)
- 石川 春次 (福岡中)
- 藤田 吉信 (六美中)
- 牧野 好博 (美川中)

- 保体 鴨下 智幸 (山中小)
- 福安 筒井 一夫 (城北中)
- 給食 二村 邦彦 (矢作中)
- 広報 杉浦 博司 (上地小)
- 生徒指導 牧野 好博 (美川中)
- ◆平成十一年度研究発表表
- 五月二十五日 生平小
- 「自ら学ぶ意欲を持つ、心豊かな子どもの育成」
- 六月一日 福岡小
- 「豊かな心を育む児童詩教育」
- 六月十八日 南 中
- 「生徒理解を基盤とした学級経営・教科経営のあり方」
- 六月二十九日 広幡小
- 「学ぶ喜びが育つ授業」
- 「学習の自立を促す教師支援」
- 七月六日 連尺小
- 「豊かな人間性の育成を志向する教育 総合的な学習への新たな提案」
- 体験活動で創る環境教育」
- 九月二十八日 大門小
- 「心豊かに生き生きと活動する大門っ子の育成」
- 「青少年赤十字活動を通して」
- 十月十五日 小豆坂小
- 「子どもの自ら度を高める教育

- 「自然・社会との共生をめざして」
- 十月二十七日 竜海中
- 「自ら追究する生徒の育成」
- 十一月五日 岩津小
- 「自ら学び、自分らしく追究する子の育成」
- 十一月十二日 福岡中
- 「目を輝かせ、自ら進んで活動する生徒の育成」
- 十一月二十六日 上地小
- 「学級づくりを基盤とした学習指導」
- 「学び合う喜びのある授業」

◆平成十一年度市教育委員会 学校訪問

- 五月十三日 六美中小
- 五月二十七日 梅園幼
- 六月二十一日 竜海中
- 七月 八日 岡崎小
- 九月三十日 美合小
- 十月 七日 愛宕小
- 十月二十一日 北 中
- 十月三十一日 山中小
- 十一月二十五日 矢作中
- 二月 十日 常磐小
- 二月二十四日 常磐南小



▲現職教育委員会総会 一六ツ美西部小学校 4月15日

# フォト・ヒストリー 岡崎の教育

## 愛宕尋常小学校開校記念式 (昭和11年)



写真提供 愛宕小

昭和十一年九月一日、愛宕尋常小学校として開校した。この写真はそのときの開校式のものである。

「昭和八年の夏、小学校ができるとの話を聞き、喜んだり驚いた。その年に浄水場はできていたものの人家はなく雑木林の起伏が続く淋しい所。その上、水野藩の悲恋物語の『お福亀蔵』の墓があり、昼に狐を見たとか幽霊が出るとかで、学校ができて入学させないという者もいたほどだ」(初代社教委員長峰澤佳行氏談。しかし、工事は学区の人たちの献身的な奉仕作業によりとんとん拍子に進み、三年後の昭和十一年九月開校の運びとなった。児童数五五五名十二学級での発足であった。

・カット

広幡小 山田 ゆかり



- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| * 伊能忠敬               | 童門 冬二           |
| 三笠書房                 | ¥1333           |
| * 楽老抄                | 田辺 聖子           |
| 集英社                  | ¥1400           |
| * 読むクスリ              | 上前淳一郎           |
| 文藝春秋                 | ¥1381           |
| * 日本の学校だってこんなに面白い授業が | 国際化教育をすすめる会 編/著 |
| 毎日新聞社                | ¥1600           |

- \* なぜフランス人は自信満々なのか 倉田 保雄  
海竜社 ¥1500

日本人とは正反対の国民性といわれるフランス人。そのフランス流生き方の見本集。ヴァカンスはフランスでは万人の権利で、ホームレスでさえヴァカンスを取るという話だが、著者は実際にこの事例に出くわす。近くに住んでいたホームレスの夫婦が8月になったら姿が見えなくなり、9月になると、日焼けして戻ってきた。「ヴァカンス？」と尋ねると「ちょっと、マルセイユの近くにね」という答。ヴァカンスを取っていなかった著者は深く恥じ入ったとか。

親子鯉が泳ぐ五月の空。浮かぶ雲が河の流れのようだ。それを見上げる父と子。澄んだひとみで、雄大な鯉のほりの泳ぎに見とれる息子。その横顔を見ながら思いをはせる父。この鯉のほりのように雄々しく健やかに育てよ。願いをこめて抱きしめる腕に力がこもる。

新緑が、鮮やかに、優しく広がる。「岡崎手をつなぐ親の会」

の願いが、障害のあるなしに関わらず、地域に広がることを願わずにはいられない。子供たちに、だれにでも分け隔てなく温かい手を差し伸べることでできる優しい心を広げたい。

シ オ  
ス ア

青葉に囲まれた校舎で、勉学に勤しむ子供たち。愛宕小学校ならずとも、開校当時と今とでは、建物や道具の様子が変わってきているに違いない。時代の流れと共に、外見は変化しても、その中の子供たちの純粋な心は、今も昔のままであってほしいものだ。

「少なくとも、この子たち自身は、自分のことを不幸だなんて思っていないません。」：「のぞみの家」の館長さんの言葉である。仕事を持つ喜び、仕事ができる楽しさがあふれ、お互いに声を掛け合い、助け合いながら、過ごす所。五月のように明るく温かい場である。